

秋の大学美術館 2003.9>>>2004.3

“仏を観る”展

文化財を直すということ

長澤市郎



埼玉県横瀬町間魔天坐像 修理前

埼玉県横瀬町間魔天坐像 修理後



文化財修理というと、単に壊れた箇所を付けたり、足したりするという、単純な作業と思われるようであるが、それは誤解である。むしろ、その文化財にとって徹底的な健康診断の場であり、同時に情報収集と公開の役目を果たすものであると言える。また新たな発見により従来の歴史が書き換えられることもある。

修理は事前の調査から始まる。調査の基本は、目視による調査が重要で、加えて、X線、赤外線などを用いた非破壊調査をおこない、外観と内部の情報を知る。それらを総合して修理仕様書を作成して、修理が始まる。

使用されている部材から、当初部材と後補部材を明確に分け、制作当初部分の材質技法の特徴を調べる。残存部分と後補部材の割合、質を調べ、後補部材内での年代による変化を調べる。これらの調査により、修理の歴史が明確になり、修理履歴が分る。各部材を調べ、傷んでいる箇所を強化し、形の欠損している箇所は新たに補う。また使用する部材は除去しないで使い、新たに補

う部分を造り、当初部分を主に組み立てて見る。これに後補部分を加え、新たに造った部材を付け足し、組み上げる。最後に表面を整える作業となる。新たに修理した箇所を周囲に合わせ、違和感がないように整えて完了となる。

こうして得られた新しい知見は、作業を進めるなかで発見されるのであって、外から見るだけの観察とは、得られる情報量に格段の違いがある。

修理においては、健全な状態の物に手を加えることは許されないし、傷みが進み、これ以上放置しておけば危険な状況に陥ると判断されて初めて修理がされるのであって、修理の時でなければ、情報を得ることは不可能であるという、このように自分で得る生の情報は伝聞とは異なる。まことに貴重な情報収集の機会でもある。

修理とは、新たな発見の場であり、この重要性を多くの方に知って貰いたく展示を準備中である。

(ながさわ・いちろうノ文化財保存学彫刻専攻教授)

世界の陶芸 交流授業
ワークショップ、シンポジウムなど多彩な催し

島田文雄

十年前から始まった国際陶芸授業、今年は日本、韓国、中国、オーストラリア、トルコ、英国、米国、七カ国一大学の参加になる世界陶芸ワークショップが芸大にて十一月二日から十一月十五日の十四日間開催されます。

大学院一年生が毎年一基ずつ築き上げた五基の薪窯と、既存の登窯を、陶芸を専攻している各国学生、教官約一 名が、五日間(十一月二日から六日)窯焚き授業をします。各人各様の絵付け、釉掛け、自分たちの手によって焼き上げた陶芸作品を手

に持ったときの感動は、あざやかな体験として学生の心に刻み込まれることでしょう。

同時に、国際シンポジウム(十一月四日・五日取手校地、八日・九日上野校地)を開催。トルコ・アナドル大学学長の基調講演を始めとする各国教官による「芸術と技術」をテーマに各国事情を交えたシンポジウム。十一月八日の親睦会においては演奏芸術センターの協力を得て、日本文化あふれる邦楽パフォーマンスの夕べが企画されています。十一月十一日は、工芸棟陶芸教室にて、引率教官による公開ワークシ

展覧会予定

(2003.9～2004.3)

大学美術館本館

名作200余点でたどる「工芸の世紀」
明治の置物から現代のアートまで
10月7日(火)～11月30日(日)
一般1100円 学生700円

特集陳列

赤松麟作没後50周年記念展
12月6日(土)～1月12日(月・祝)
入場料300円

芸大コレクション展 日本画の名品(仮称)

12月6日(土)～1月12日(月・祝)
入場料300円

大藪雅孝退官教官展

1月22日(木)～2月8日(日) 入場無料

第52回卒業・修了制作展

2月21日(土)～2月26日(木) 入場無料

陳列館

建築科椅子展

9月5日(金)～9月15日(月・祝)
入場無料

“仏を観る”展

9月18日(木)～10月5日(日) 入場無料

日本画第1研究室研究発表展

10月6日(月)～10月14日(火)
入場無料

NASDA宇宙開発事業団との 共同研究の成果発表

10月15日(水)～10月31日(金)
入場無料

国際陶芸展

11月2日(日)～11月9日(日)
入場無料

“しあわせのデザイン” ソウル大学校交流展

11月11日(火)～11月14日(金)
入場無料

取手館

美術学部取手校地創作展

12月 入場無料

開館時間は、いずれも10時～17時。月曜日休館。ただし月曜日が祝日の場合、開館することがあります。

展覧会の名称・会期については、変更することがあります。

本学には駐車場はありませんので、お車での来館はご遠慮ください。

展覧会についてのお問い合わせ
東京芸術大学大学美術館
Tel.03-5685-7755
NTTハローダイヤル
Tel.03-5777-8600

展覧会の紹介は、下記ウェブサイトでご覧になれます。
<http://www.geidai.ac.jp/museum/>



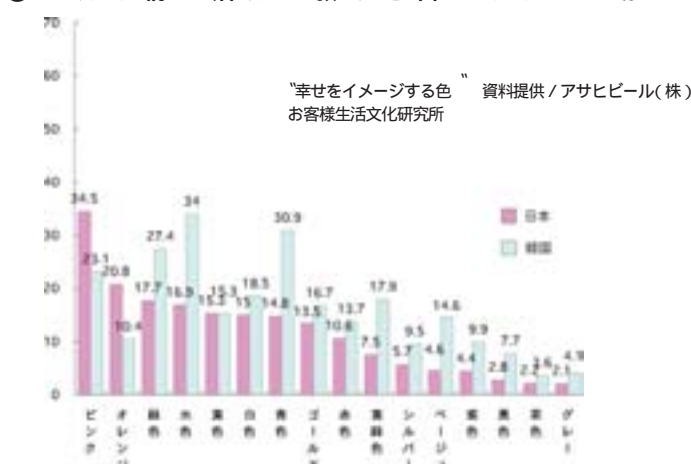
トルコでの交流。2001年

ヨッフ(一時から一六時)を行います。その間、国際陶芸展を、芸大陳列館(十一月三日から九日)、取手市民ギャラリー(きらり)(十一月三日から八日)において開催。十一月十二日から十四日は中部地方(高遠・美濃・瀬戸)を研修旅行します。学生教官の陶芸を通じて国際交流の深い絆と友情の輪が広がることを期待しています。(しまだ・ふみお/工芸科陶芸研究室教授)

“しあわせのデザイン”展 姉妹校ソウル大学校美術大学とのデザイン交流展

東京芸術大学とソウル大学校美術大学は、ここ十数年姉妹校としてソウル、東京を隔年交代で交流プログラムを実施してきました。平成十四年度、十五年度はデザイン科が担当。昨年十二月にソウルにて、「二十一世紀東アジアデザインの新しい価値」(オプザバー)として中国清華大学の教官も参加)と題する交流セミナーと学生ワークショップを行い、東アジアの新しいデザインの流れを相互に認識することができました。今回はその後半戦。日本、特に東京で暮らすわれわれやデザイナーの卵たちが、今いちばん何に飢え、何を求めているか、という視点に立ち、「それじゃ、一度根本に」ということで、「しあわせのデザイン」というテーマに辿りつきました。

本来、人々の暮らしを豊かにすることが目標であるはずのデザインというものが、敗戦を境に高度経済成長を支えるものとして役割を与えられ、産業からの視点だけが最優先されてきました。ただ、ここ数年の経済不況は、皮肉にもデザイン領域のなかにもうひとつの視点、かつてあった土俵の存在をわれわれに伝え、またIT革命は、モノの表面から内部(本質)へ、向かうようデザイナーたちに対して手招きしている感があります。



長濱雅彦

秋の奏楽堂 2003.9>>>2004.3

ピアノシリーズ二〇〇三
プロコフィエフ没後五〇年

聴き手の心に沁みる叙情

角野 裕

二世紀も過去の世紀となつて、早くも三年の歳月が流れていますが、今年は二世紀前半のロシアの代表的な作曲家プロコフィエフ没後五十年の記念の年を迎えています。八曲のオペラや七曲のバレエ音楽を始めとして、劇音楽、映画音楽、協奏曲、器楽曲、声楽曲等、極めて多岐にわたる作品を残したプロコフィエフですが、九曲のソナタを始めとして、生涯にわたつて様々なピアノ作品を書き続けたのみならず、自身もピアノリストとして優れた録音を残しているように、ドビュッシー以降、ピアノに最も比重を置いた作曲家の一人と言えるでしょう。実際、彼は、初めてのアメリカ演奏旅行で、「鋼鉄の腕を持ったピアノリスト」と讃えられたのです。

プロコフィエフの音楽というと、それらが生み出されたおおよそ二世紀近く前と同じく、今日でもその鋭角的な響きや攻撃的な曲想が強く印象づけられています。確かに、彼自身、自分の中には「モダンイズム」や「モーター」といった要素があることを認めていますし、そのため現在でも、「プロコフィエフは嫌い」と敬遠する向きもあるでしょう。しかし、彼の作品は同時に、精妙な性格描写に長け、現代社会の持つ不安や孤独、その中で人間の悲しみなどを感じ

させるリリズムを湛えた旋律を持ち、聴き手の心に沁みる叙情には、格別な味わいがあります。「ヒーターと狼」に見られる親しみやすい旋律と登場人物の性格付けの巧さや、「戦争ソナタ」での深く魂を揺さぶる真摯な感情表現を思い起こしていただくだけでも、その一端は伺えるのではないのでしょうか。「叙情性」は彼の中では最も遅くに芽生えた要素ではありましたが、最も深く、又、大きく花開いた要素でもありました。

一九一八年大正七年、渡米への道すがら一時日本にも立ち寄つて、演奏会も行つたことのある偉大な作曲家の節目に当たる本年の秋、音楽学部ピアノ科では、多くの教官と大学院生の協力を得て、九曲のピアノ・ソナタ全曲をはじめ、ピアノのための様々なタイプの独奏曲、バレエ音楽などのオーケストラ作品からのピアノ編曲など、彼のピアノの世界を三回にわたり演奏いたします。よく知られた作品はもとより、「その物自体」、「四つの小品」、「ソナタ第九番」等、普段生演奏では滅多に聴くことのできない曲を数多く含んだこのシリーズは、きっと、あなたを未知のプロコフィエフとの新しい出会いに誘ふことでしょう。

(かくの・ゆうノ音楽学部音楽科助教授)



セルゲイ・プロコフィエフ。1930年代「SERGEI PROKOFIEV V」(STATE PUBLISHERS "MUSIC" MOSCOW, 1965)より

奏楽堂演奏会予定

(2003.9～2004.3)

定期演奏会・特別演奏会予定

9月4日(木)
モーニング・コンサート第10回
(作曲・声楽)

9月11日(木)
モーニング・コンサート第11回
(作曲・ピアノ)

9月18日(木)
藝大21 アジアの協奏曲
～民族楽器とオーケストラによる～

10月10日(金)
芸大定期オペラ第49回 第1日

10月11日(土)
芸大定期オペラ第49回 第2日

10月24日(金)
芸大定期オーケストラ第305回

10月25日(土)
"うた シリーズ 第2日
スペインと中南米の音楽作品のタペ

10月30日(木)
附属音楽高等学校定期演奏会

11月2日(日)
ピアノシリーズ2003
(プロコフィエフ没後50年 第1日)

11月6日(木)
室内楽演奏会
ハイドン弦楽四重奏曲
全曲演奏シリーズ 第1日

11月7日(金)
室内楽演奏会
ハイドン弦楽四重奏曲
全曲演奏シリーズ 第2日

11月9日(日)
ORCHESTRA EXPERIMENTS
有賀誠門退官記念公演

11月21日(金)
芸大定期合唱・オーケストラ第306回

11月24日(月・振休)
上野の森音楽むかしばなし
～芝居と音楽のひととき～
第3回 ヘンデル:バスティッチョ
～つぎはぎオペラ～

11月27日(木)
創造の杜2003
～芸大現代音楽のタペ～

11月28日(金)
芸大定期オーケストラ第307回
～学生オーケストラ演奏会～

11月30日(日)
ピアノシリーズ2003
(プロコフィエフ没後50年 第2日)

12月1日(月)
芸大定期吹奏楽第69回

12月2日(火)
芸大定期邦楽第67回

12月6日(土)
"うた シリーズ 第3日
～限りなく広がるアンサンブルの
楽しみ・喜び～

12月14日(日)
ピアノシリーズ2003
(プロコフィエフ没後50年 第3日)

2月12日(木)
モーニング・コンサート第12回
(作曲・ピアノ)

2月12日(木)
芸大定期室内楽第30回 第1日

2月13日(金)
芸大定期室内楽第30回 第2日

2月20日(金)
芸大定期チェンバーオーケストラ
第2回

2月22日(日)
楽器シリーズ「和楽器」

3月16日(火)
上野の春～芸大教官演奏会～
第2回

2003年6月30日現在の予定表です。今
後、演奏会内容、日程などについては、
変更することがあります。

演奏会の曲目、開演時間などの詳細に
ついては、決定次第、大学ホームペー
ジで発表します。
<http://www.geidai.ac.jp>

本学には駐車場はありませんので、お
車でのご来場はご遠慮ください。

チケットの取り扱い
チケットぴあ0570-02-9990 / 東京文化
会館チケットサービス03-5815-5452 /
東京芸大大学美術館ミュージアムショ
ップ03-5685-1176

上記の演奏会のほか、「学内演奏会」「卒
業演奏会」の日程については、下記に
お問い合わせください。
演奏会のお問い合わせ先
演奏芸術センター演奏係
03-5685-7700



セルゲイ・プロコフィエフ来日公演パンフレット(1918年)



来日公演がおこなわれた東京・帝国劇場 "SERGEI PROKOFIEV" より

第1日 11月2日(日)

ソナタ第1番 op.1 植田克己 / 4つの小品 op.4 野田清隆(博士4年) / 《思
考》より第2曲レント op.62 No.2・《3つのオレンジへの恋》より行進曲と
スケルツォ op.33ter・《6つの小品》よりエチュード(バレエ 放蕩息子 によ
る) op.52 No.3 前田健治(修士1年) / ソナタ第9番 op.103 西川秀
人 / つかの間の幻影 op.22ー伊藤恵 / ソナタ第6番 op.82 北川暁子

第2日 11月30日(日)

トッカータ op.11・《10の小品》より行進曲、伝説、前奏曲、スケルツォ
op.12 No.1,6,7,10 佐野隆哉(修士1年) / サルカズム op.17・ソナタ第3
番 op.28 秦はるひ / ソナタ4番 op.29 平井丈二郎 / 《シンデレラ》による
6つの小品 op.102 砂原悟 / ソナタ第8番 op.84 渡邊健二

第3日 12月14日(日)

4つの練習曲 op.2 木村綾子 / ソナタ第2番 op.14 岡田敦子 / 《その物自体》
より第1曲 op.45 赤井裕美(博士2年) / ソナタ第5番 op.38 沢田千秋(博
士2年) / 《ロメオとジュリエット》による10の小品 op.75 角野裕 / ソナ
タ第7番 op.83 田代慎之介